

2025年度  
ディプロマポリシーに関連した能力に  
関するルーブリック調査

高崎商科大学・高崎商科大学短期大学部  
IR推進委員会

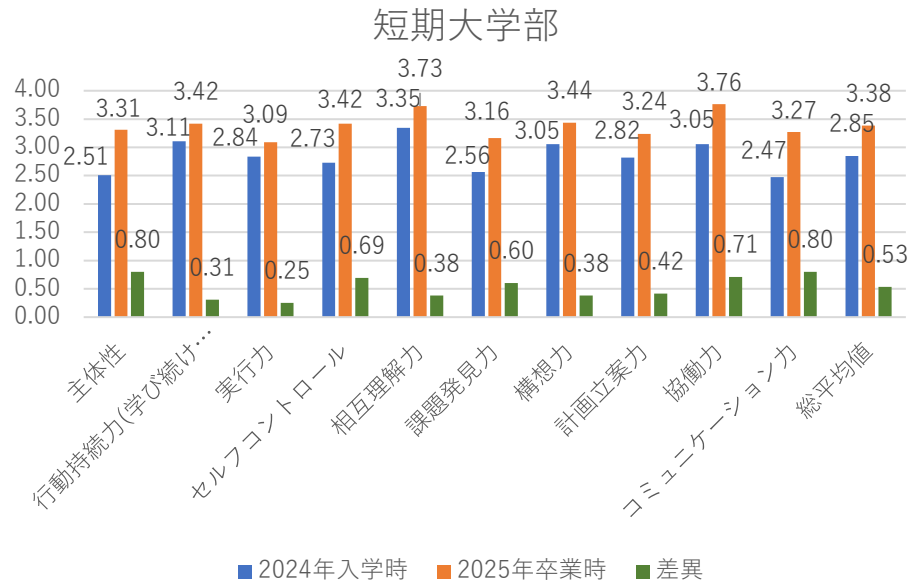
# 短期大学部

対 象：短期大学部経営学科 2024年度生の内、2025年度の卒業要件を満たした学生  
 アンケート実施時期：入学時2024年4月、卒業時（2年次）2025年12月  
 回答率：100.0%（55／55名）

【短期大学部】

	主体性	行動持続力 (学び続ける力)	実行力	セルフコントロール	相互理解力	課題発見力	構想力	計画立案力	協働力	コミュニケーション力	総平均値
2024年入学時	2.51	3.11	2.84	2.73	3.35	2.56	3.05	2.82	3.05	2.47	2.85
2025年卒業時	3.31	3.42	3.09	3.42	3.73	3.16	3.44	3.24	3.76	3.27	3.38
差異	0.80	0.31	0.25	0.69	0.38	0.60	0.38	0.42	0.71	0.80	0.53

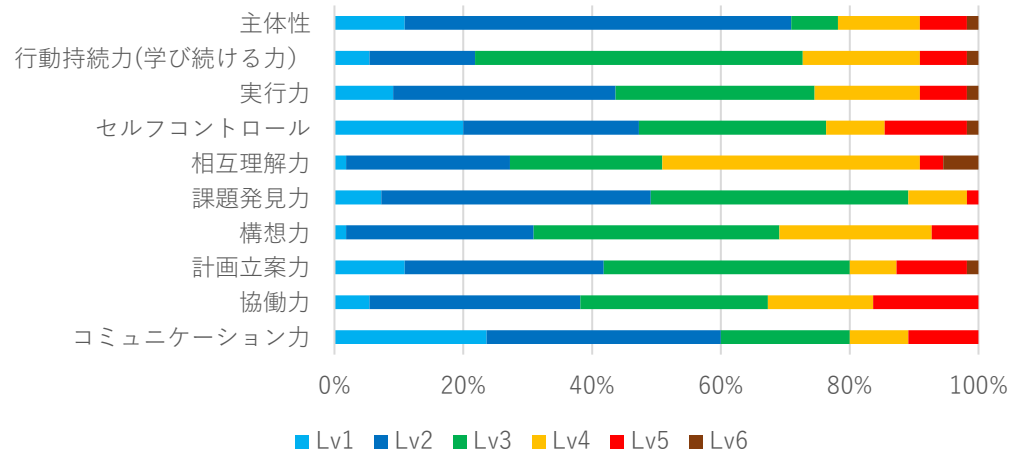
< グラフ 1 >



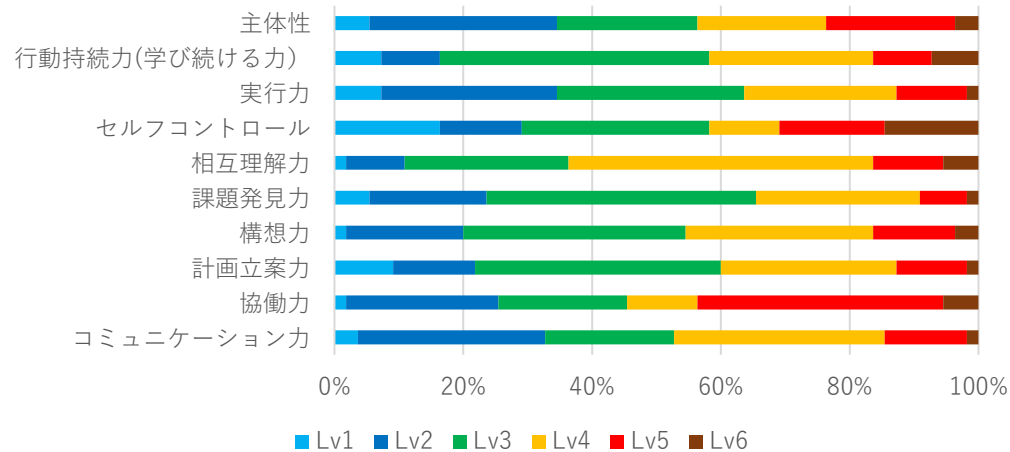
# 短期大学部経営学科

## <グラフ2：割合比較>

2024年入学時



2025年卒業時



# 短期大学部

## < 所見 >

本調査は、短期大学部2年生（卒業許可者）を対象に、入学時と卒業時（2年次）のディプロマポリシーに関連する能力や知識の変化を分析したものである。本調査は、PROGに付随したアンケート調査において、学生自身が自己評価した結果を基に実施しており、各能力の成長度合いを学生の主観的な視点から測定している。

すべての項目で上昇が見られ、特に「主体性」「協働力」「コミュニケーション力」で0.7以上の上昇が見られた。これは、本学におけるグループワークやインターンシップ、実習等の授業の成果が表れていると考えられる。

一方、「実行力」は0.25の上昇に留まった。ただし、これについても2年間という限られた年限での成果としては十分な上昇だと考えられる。また、「相互理解力」については0.38の上昇に留まっているが、これは入学時の評価値が3.35と最も高かったため上昇余地が小さかったことが影響していると思われる。

以上の成果の背景には、少人数教育や実務に直結したカリキュラムが功を奏している他、1年次から本格化する就職活動等のキャリアサポートの効果もある可能性がある。

なお、2年次においてもLv1の回答が一定割合いることから、これらの底上げを図ることも今後の課題となるであろう。特に「セルフコントロール」については、全体としては0.69の上昇を示しているのにもかかわらず、2年次のLv1の回答数が9件（16.4%）と依然多いため、個別事情に応じた対応等も検討すべきであろう。